

意見交換会での主な発言

1 長野県の文化芸術の拠点として「信州の文化芸術」を国内外に発信する美術館

- ・常設展示は美術館の要（ミュージアムパワー）であるので、思い切って常設展示を美術館の中心にし、貸与スペースを大きくとるべきだ。
- ・中国人観光客に対しては、「書」が有効である。
- ・デザインをコレクションとしたミュージアムの実現を考えてほしい。
- ・中央の公募展が巡回できるような、壁面長 650～900m 程の大型の施設が望ましい。
- ・ハードは、和テイストの精神性の高いものを望む。ソフトは、総合・複合的施設が望ましいがテーマパーク的だけのものは疑問である。美術館は本物を見せる施設とするべきである。

2 だれもが楽しみ、学べる顧客目線を重視した美術館

- ・アートギャラリー、アーカイブ、大きなイベントや講演会、上映会等があれば、美術に関心のない学生も来館するようになる。
- ・いけばな展は水を使うので美術館での開催は難しいが、検討していただきたい。
- ・小中学校のうちから積極的に作品に触れていくことが重要であり、また、制作させるばかりではなく、作品鑑賞の機会をつくっていくことが必要である。
- ・カフェレストランについては、食は文化であるので重要だと考えている。長野県らしい「粉もの食」などを提案したい。
- ・美術館とは建物だけではない。城山公園全体を美術館として、美術館の外側でも学べるような「場」づくりが重要である。

3 「芸術家」や「学芸員」がつどい・つながる美術館

- ・美術館が、集い、つながるようになるために、核となるのは学芸員である。しかし、学芸員だけにまかせると独りよがりになりすぎるため、舵取りをすることは必要である。
- ・信州の特徴は美しい自然である。コレクションのメインは、東山魁夷作品だけで十分ではないかと考える。
- ・レストランは有名なシェフを入れて、そこでコンファレンス等が行えるような、大人がリードしていく大人の文化の創出を考えてほしい。
- ・県内の美術館は、1～2 名の学芸員がすべて行っている状態であり、自分で勉強できることも限られているので、県立美術館の学芸員に頼りたい気持ちもある。県内学芸員のボトムアップを目指してほしい。

4 国宝・善光寺や城山公園と一体となり、文化的ゾーンを創出する美術館

- ・本館の建替えを前提ではなく、50年を経て機能不全となった建物を回復していく方向を考えてほしい。
- ・箱モノをつくる時代ではない。地域全体を美術館とする「場」づくりが重要である。
- ・善光寺側から見てみると、現美術館は見えないので、植栽も含めたデザインが大事である。
- ・現美術館は大木に囲まれていて外から見えず、展示室も離れすぎていて、芸術を鑑賞する気持ちが途切れてしまいがちだ。
- ・城山公園地区の再開発ととらえて、道路、駐車場、ふれあい広場を抜本的に変えていくべきだと思う。
- ・善光寺から東側の庭園の間のデザインがバラバラであるため、大きなグランドデザインの構想を持ち、街づくりとして全体を考えるべきである。
- ・美術館の外側（公園）も美術館のスペースだと感じるので、公園には山とか河とか、ロッククライミングのできる壁等があるとファミリー層が訪れるのではないか。
- ・信州美術は堅いイメージなので、もっとファミリー層を呼べるものにすべきである。
- ・足立美術館は「行ってよかった」と心から思えたように、美術館の庭園、コレクション、お茶室等、何か一つでも心に残るようなものが必要だ。
- ・長野駅から善光寺までは距離があり、学生等は駅ビルで帰ってきてしまうので、どうやったら美術館に気がついてもらえるか検討する必要がある。
- ・美術館の企画展が多いため、展示スペースを借りることが難しく、利用しやすい仕組みを望む。
- ・県民に、美術とは生きているものだ伝えていく必要があり、現在活躍している作家のことも、取り上げていくべきである。
- ・新館開館時に、正規職員の学芸員が3人だけでは運営が大変なので、適切な人材を今から育成する必要がある。
- ・公民館活動と美術館活動は内容がかぶるので、住み分けが必要だと思われる。
- ・学芸員は交流を助ける黒子である。人に重きを置いた美術館整備検討構想であってほしい。